

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都東京都千代田区神田神保町3-29-1

為替週間展望 = ドル円は103円台を中心とするもみ合いか

[12月28日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		12月21日～12月25日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	103.40	103.89(21)	103.25(21)	103.60	+0.30
ユーロ・ドル	1.2237	1.2257(22)	1.2130(21)	1.2198	-0.0059

=====

国内株・金利/米国株・金利		終値		前週末比	
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	26,656.61	-106.78	日本10年債利回り	0.022	+0.012
ダウ平均株価	30,199.87	+20.82	米10年債利回り	0.923	-0.023

=====

<来週の主要経済統計等>

- 28日 日本11月鉱工業生産指数速報値
- 29日 米10月S&Pケースシラー住宅価格指数
- 30日 スイス12月KOF先行指数
米12月シカゴ購買部協会景気指数
- 31日 中国12月製造業購買担当景気指数 (PMI)
米新規失業保険申請件数

【前回のレビュー】ドル円は17日には一時103円を割り込んで102.88まで下落した。FRBの緩和策の長期を背景にドルの軟調な流れが継続するとみられ、ドル円は一段と下値を探る展開が見込まれるとした。

【新型コロナウイルスの変異種が見つかる】

17日に米国での追加経済対策への期待感や米連邦準備制度理事会 (FRB) による金融緩和の長期化観測などを背景にNYダウが過去最高値を更新した。ドル円はリスク選好のドル売りの動きを背景に103円を割り込み、102.88円までドル安円高が進んだ。ただ、103円割れは行き過ぎとの見方も出て、18日以降は緩やかながら戻り歩調で推移している。

21日の週はクリスマスウィークとなっており、ドル円の値動きは小幅にとどまった。ただ、英国の欧州連合 (EU) 離脱に伴う貿易交渉に関する報道に一喜一憂する展開となり、ポンドがかなり荒れた展開を見せた。交渉が難航してハードブレグジットもやむなしとの報道を受けて、ポンドドルは21日に1.35ドル近辺から1.3188まで急落、ポンド円は139円台半ばから137円割れまで値を崩した。ただ、売り一巡後は急速に値を戻すなど、交渉のヘッドラインに振り回される展開が続いた。

翌日以降はポンドドル、ポンド円ともに堅調な動きを見せた。23日には英国とEUでこれまでに溝が深かった漁業権で歩み寄りを見せて、交渉が合意目前との報道が流れた。こうした報道でポンドは一段と上昇しており、ポンドドルは1.36台に乗せ、ポンド円は141円台に乗せるなど上昇基調で推移した。24日には両者が自由貿易協定 (FTA) で合意に達した。合意発表後はポンドドルもポンド円も堅調な動きとなっている。ただ、すでに織り込まれていたこともあり伸び悩みを見せた。

英国では従来よりも感染力が7割強いとされる新型コロナウイルスの変異種が見つかり、その動向が警戒されている。イタリア、デンマーク、南アフリカなど他の国でも変異種が発見されている。なお、英国では23日にさらに感染力の強い別の変異種も見つかったと報じられている。英国や米国ではワクチンの接種が開始されたことで、ワクチ

ンの普及による感染抑止への期待感が高まっている。ただ、新型コロナウイルスの感染拡大傾向は各国で歯止めがかからずに広がりを見せている。

米国では9000億ドル規模の追加経済対策について、21日に与野党で合意した。ところがトランプ米大統領は国民への給付金の引き上げなどを求めており、このままでは署名しない意向を示している。600ドルの国民への直接給付については、2000ドルへの引き上げを要求していると報じられており、追加経済対策が実際に成立するまではまだ紆余曲折がありそうだ。成立が遅れるようだと、米株安・ドル高に傾きやすくなるとみられる。

クリスマスの後は年末年始となり、ドル円は動きにくい展開が続くそう。このころは104円が上値抵抗となってくる。ドルと円は同じ方向に動きやすく、米国で追加経済対策が成立してもドル円はもみ合いを大きく抜けるのは難しい状況が見込まれる。ポジティブな材料の場合はドル円の上昇につながりやすいとみられるが、大きな動きは期待しにくく、103円台を中心とするもみ合いが続くそう。ドル円の目先の予想レンジは、102.80～104.50円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、28日に日本11月鉱工業生産指数速報値、29日に米10月S&Pケースシーラー住宅価格指数、30日に米12月シカゴ購買部協会景気指数、31日に米新規失業保険申請件数などがある。

【ユーロドルは1.22ドルを挟んでの振幅か】

ユーロドルはポンドドルの動きを眺めて、追従する傾向が見られた。ただ、ポンドドルほどの荒れた動きではなく、ドルの動きにも左右されやすい傾向がある。ドルインデックスは91近辺から90近辺まで下落した後はもみ合いとなっている。一方でユーロドルは1.2273付近まで上昇した後は失速しており、1.22近辺で一進一退の動きを見せている。

ユーロドルは長らく上昇トレンドが継続してきたこともあり、高値圏での調整の動きに転じている。大きな崩れは想定しにくいものの、力強く上昇する材料には乏しく、1.22ドル近辺での振幅となりそう。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.2100～1.2350ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、30日にスイス12月KOF先行指数、31日に中国12月製造業購買担当景気指数（PMI）などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。